

# どろっと まにわ 真庭

まちの話題

7月23日、湯原地域一帯をコースとする第4回湯原温泉トライアスロン大会が開かれ、過去最多の442人の選手が、スイム、バイク、ランと続く過酷なレースで熱戦を繰り広げました。コース上では、湯原地域を中心とした市民ボランティア約350人が給水所や交通整理などで選手をサポートが「がんばって!」「あと少し!」と熱い声援を送っていました。



水しぶきをあげて泳ぐ選手

中学生ボランティアも運営を支える



仲間たちと共に感動のゴール



坂道でも声援に笑顔

身体を冷やしてラストラン

ゴールまであと少し!

7月30日、蒜山郷土博物館で夏の体験教室「つくろう土器・はにわ!!」が開かれ、小学生から一般まで14人が参加しました。縄文・弥生時代に作られた土器やはにわをテーマに粘土をこね、形成後は竹串や縄を使って土器に模様を付けて仕上げ。後日、野焼きという縄文時代の焼き方で素焼きにしてできあがりです。この体験教室は土器づくりを通して、古代の歴史や生活に興味を持ってもらうことを目的に開催されました。

## 土器づくり古代への想い 蒜山夏の体験教室



焼きあがりを楽しみに粘土をこねます



この後ウナギはスルリと手をぬけ水の中へ

久世の惣から落合の開田にかけて流れる六ヶ水路を使った魚のつかみ取り大会が、7月23日に開かれました。大会は水路を管理する六ヶ土地改良区が、水路を流れる水が地域の田畑を潤していることなどを子どもたちに知ってもらい、水路をきれいに使ってもらおうと毎年開いています。子どもたちは全身ずぶぬれになりながら、足元をすり抜けていくウナギやアマゴの魚影を追いかけました。

## 水しぶきをあげて 六ヶ水路魚つかみ取り大会

## 7/29 研究の楽しさを知ろう

勝山高校と大阪大学の交流シンポジウムが開かれ、高校生がロボット工学、社会人類学、心理学のブースに分かれて、ニホンザルの行動研究や個体識別ができるメガネの開発プロジェクトについて話を聞きました。



## 8/2 孫の成長が何よりの楽しみ

小谷千代さん（蒜山下見）が、8月2日に百歳を迎えられました。自然や空などの風景を眺めることが好きという小谷さん。13人のお孫さんの成長を楽しみにしながら、穏やかに過ごされています。



## 8/5 水田小で夏の思い出作り

今年度で閉校となる北房の水田小学校で、初めて地域を挙げての夏祭りが行われました。会場には保護者たちによる出店が並んだほか、やぐらを囲んでの盆踊りや夜の学校を巡るスタンプラリーなどが行われました。



## 8/10 ストレスをためないのが長寿の秘訣

浅野待子さん（勝山）が、8月10日に百歳を迎えられました。おしゃべりが好きで、明るい性格の浅野さん。好きなものを食べて、ストレスをためないことが長寿の秘訣ではないかということです。



## 8/16 今でも料理はご自分で

藤井まつさん（久世）が、8月16日に百歳を迎えられました。昔からよく魚を食べていたため骨が丈夫で、骨折したことがないという藤井さん。自分でできることは自分でして、自宅で元気に過ごしています。



夏の醍醐桜に再会したルースさん(写真中央)

アメリカ在住の世界的ピアニスト、ルース・スレンチェンスカさん（92歳）が、8月2日に美川小学校の体育館で演奏し、駆けつけた地元住民やファンが、軽やかな音色と巧みな指使いに魅了されました。ルースさんは岡山県天然記念物の醍醐桜に魅了され、2007年4月に醍醐桜の下で奉納演奏をしています。演奏後には青々とした葉をつけた夏の醍醐桜と地元住民に再会し、山頂で和やかな時間を過ごしました。

10年ぶりに真庭で演奏  
ルース・スレンチェンスカさん演奏会



子ども樹木博士になれるかな

8月18日、勝山美しい森で子ども樹木博士認定事業が開かれました。市内外から参加した子どもたち20人は3つのグループに分かれ、勝山美しい森に生育する樹木を観察しながら、名前や生態などを学びました。その後、50種類の標本樹木を使って認定試験が行われ、正解数に応じて認定書が授与されました。この事業は子どもたちに森林の大切さを知ってもらおうと真庭森林組合が開いていて今回で19回目です。

みどりの大切さを学ぶ  
子ども樹木博士認定事業